

経営に気づきと新たな価値を

Management & Economic Information

# 先見経済 SENKEN KEIZAI

Since 1938

5  
May.  
2017  
月号

清話会セミナー講演録

臓器縦割りから  
臓器横断治療へ

国立研究開発法人  
国立がん研究センター がん予防・消化器内科長

吉野孝之

未来を見通すために  
正しい歴史理解を

大和大学 政治経済学部 専任講師

竹本知行

先見 TOP interview

苦しむ人を食で救いたい

株式会社安全食品株式会社 代表取締役

辻 幸一郎

羽ばたけ! 関西中小企業

株式会社東山屋 代表取締役

木村隆彦

時論

勝ち続ける人には  
明確な理由がある

一流の魅せ方

魅せ方コンサルタント

鈴鹿久美子



# 苦しむ人を食で救いたい

アレルギー対応食品のバイオニアが提案する新たな予防医学のかたち

構成・撮影 ▼大澤義幸

アレルギー対応食品製造・販売の草分けとして、1979年に東京・狹窪で創業した辻安全食品。現在では辻安全建業や調剤薬局も営む2代目代表の辻幸二郎氏は、「人の身体は食物でできている。食物を変えればアレルギーは治る」と語る。アレルギーに苦しむ多くの人々を救ってきた氏と語り合う。

## 父親が一念発起し創業 業界のバイオニアに

山口 もう20年近く前になりましたが、うちの子供は2歳でアトピーの洗礼を浴び、アレルギーの出ない自然食品を選ぶときに辻安全食品の社名をよく見かけていました。会社の創業は1979年でしたよね。

辻 そうです。父親が創業して、もう38年目になりますね。ゼネコン出身の父は、バブル期には首都高や地下鉄を造っていました。ところが、接待漬けの毎日

で体重が55kgから100kgに増え、多臓器不全を起こし、医者からついに、「5年後の生存率は50%」と宣告されてしまいました。そんな父が死にたくない一心で始めたのが食事療法です。

山口 食が人の健康な身体をつくる現実を目の当たりにしたわけですね。

辻 はい。父は30代で仕事の絶頂期でしたが、それからは身体を蝕む仕事のスタイルをやめました。「1度死んだ命だから、これからは食べ物で世の中の人の命を救おう。人のためになることをやろう」と考え、辻安全食品を創業したのです。最初の数年間は、無農薬野菜や玄米、お米、有精卵、化学物質を使わない肉などを扱っていました。



## 辻 幸一郎



聞き手  
株式会社プロ・アクティブ 代表

## 山口哲史 (やまぐち・てっし)

1961年兵庫県出身。関西学院大学商学部卒業後、特約リクルートなどを経て90年、現社プロ・アクティブの前身のフェイルド・アクティブを設立。竹100%でできた繊細な自然でビューアエネルギーを活用した「人を自然に輝かせる(ラディアンズ)」力のある健康、美容商品の企画・販売を手掛ける。「ガッツマン」の愛称で親しまれている。  
http://www.pro-active.co.jp

山口 それからアレルギー対応食品をつくり始めて、業界の草分け的存在となった。  
辻 そうなりましたね。当時、食物アレルギーの治療には必ずといっていいほどステロイドを使用しており、食事療法の「しょ」の字もありませんでした。そのときに東京医大、女性医大、北里研究所病院の先生方から、「アトピーやぜんそくの子供たちは、卵や牛乳が原因かもしれない。それと小麦、穀物、豆類も一切使わないクッキーをつくってくれないか」と依頼を受けました。3年目からアレルギー1について考え始め、5年目に関発したのが、日本初のアレルギー対応食品「さくさくクッキー」です。これは今でもロングセラー商品になっています。

山口 うちの子供もそれを食べていましたよ。どんな材料を使

っているのですか？

辻 原材料には椰子を使っていますが、アレルギーとなる実ではなく、幹を使います。地域の原住民は直径2cmもある椰子の幹の中身を主食にしています。それをヒントに研究を進め、商品開発にこぎ着けました。

山口 欧米と比べて、日本のアレルギー対応の状況はいかがですか？ 国もそうですが、企業の商品開発なども含めて、辻 遅れていますね。欧米では

80年代には食物アレルギーの概念が確立されていました。牛乳や卵を食べて発作が起こることも知られており、アレルギー対応食品が次々と開発されています。一方、日本では70年代に牛乳、卵、小麦の摂取量が急増し、コンビニが広まった80年代になってもまだ食物アレルギーの概念がなかった。

アレルギーで苦しむ人々を助けた  
その一心で今日までやってきました

山口 コンビニ食は最近問題になっていきますね。  
辻 日本だけでですよ。コンビニ

のカット野菜に次亜塩素酸ナトリウムをかけて、非表示で売っているのは、あんなものをかけていけば、野菜の腐敗を防ぐ本来の菌が働かなくなり、腸内環境がボロボロになる。アナフィラキシーショックが懸がれ始めたのもこのころです。それでは、医師会や厚生労働省からは、アトピーで苦しむ子供をクッキーで治そうという辻安全食品はオカルト企業扱いされました。辻安全食品と付き合う医師からは

「医師免許をはく奪する」というお触れが出たほどです。我々も苦しむ子供を治そうといっているのに、国はなぜこんなにも頑固なのかと憤りましたね。  
山口 そんな運風のなかでも、社会のニーズに応えながら、さまざまなアレルギー対応食品を開発し、今の業態になった。商品ラインナップはどのくらいあるのですか？  
辻 数百種類はありますね。新しい商品では、雑穀を使わない

醤油などもつくっています。ANAやJALのアレルギー対応機内食も開発していますよ。

## 食物だけではない

## 環境と身体の間わり

山口 辻さんは辻安全建築も経営されていますよね。食品と建築では畑違いのような気がしますが。  
辻 業種として見るとそうですが、「一人の身体は食べ物でできている。環境もそこに関わって

いる」と考えると理解が早いかなと思います。ホルムアルデヒド、トルエン、パラジクロロベンゼンなどの化学物質過敏症に悩む人を救いたい、この会社も父が97年に創業しました。今ではアレルギーに配慮した一軒家などもつくっています。実はアレルギーの原因のほとんどは家なんです。今は大手ハウスメーカーで、化学物質過敏症の人に配慮した家を建てようとしているところもあります。しかし、

実際に症状が出ている人が住めるような家は、うち以外ではそう簡単に建てられません。

**山口** 家がアレルギーの原因のひとつだといっているのは驚きです。多いですよ。化学物質過敏症だけで700万人超の患者がいるとされていますが、実際はこの何倍もいるはずですよ。専門研究所病院にシツクハウスを専門外来があるのですが、診療を希望する患者が全国から押し寄せるので、対応し切れていませんでした。そこで辻安全食品の2階に、アレルギー専門外来のそよ風クリニクを開業しました。

うちはその内装を手がけています。院長は化学物質過敏症やシツクハウス症候群の権威である北里大学医学部名誉教授の宮田幹夫先生。食物アレルギーなら総合病院で診てもらえますが、化学物質過敏症まで診れる医者

は日本でも数人しかいません。先日「ビッグコミック スペリオール」のマンガ「かびんのつま」で、日本一腕の良い医者として紹介されましたよ。

**山口** 家を買ってからアレルギーが出て困りますよね。建て直すのも難しいです。

**辻** 化学物質過敏症の方は、家にほんの少しでも化学物質を使

った箇所があるとすぐに気づきます。治療すれば出にくくなりますが、もった過敏になると電磁波はおろか、低周波にすら反応してしまふ。逃げ場がないので、精神的に病んでしまいます。家は人生で一番高い買い物なのに、住み始めてから頭が痛い、鼻血が止まらなくてと言いが痛くも手遅れです。発汗や排尿・排便は自然な生理現象ですが、鼻血が止まらなくなるのはデトックスの最終段階、血液中の化学物質を外に出すには、皮膚を破

つて出すしかない。それが鼻血なんです。

**山口** 鼻血は緊急事態を示すシグナルというわけですね。そよ風クリニクの患者はどんな層が多いのですか？

**辻** 主婦が9割ですね。しかし主婦が症状を訴えようものなら、仕事で日中外出している旦那さんからは「気のせいだろう。俺が心血注いで建てた家に文句をつけるのか」と怒鳴られるのがオチです。居ても立ってもいられず病院に駆け込んで、自律神経失調症や更年期障害だと診断されてしまふ。そよ風クリニクでは、アレルゲン検査や遺伝

子検査をして、治療はもちろん、診断書も書いてもらえます。誰も理解してくれなかった症状が判明するので、患者はこれでようやく救われるんです。

**山口** 辻安全建築では実際にどんな施工をされるのですか？

**辻** 多いのは化学物質の表面を特殊な素材でコーティングする方法ですね。もう引越すしかないほどの重症の方であれば、新しく建て直す手もありますが、リフォーム前の中古マンション

を買い取ってもらえ

れば、うちがリフォーム

ームから請け負うことも可能です。新築よりは安価に済みますから。

**山口** 現代病とも言える花粉症は、アレルギー反応が出る構造は違うのですか？

**辻** 違います。花粉はラーメンにかける胡椒のようなもので、「公害であって、病気ではない」というのが持論です。きちんと治したいのであれば、粘膜や皮膚の常在細菌をコントロールしたり、アレルゲンを体内に蓄積

させないようにすることで、

**山口** そうなんですね。花粉症も食物で治るのでしょうか？

**辻** 花粉症もきちんとした検査と食事でもっとよくなりますよ。もっとも、人によって原因となるアレルゲンは異なるので、治療の内容はそれぞれ変えていきます。最初から高価なサプリメントで治そうとせずに、お金のからん最適な方法を探したり、花粉症に限らず、自分の身体は何でできていて、どんなアレ

ルギーに反応するの

を早く治りますね。

**山口** こういふ話を教えてください。

**辻** そうですね。アレルギー検査のIGE検査は子供なら無料ですが、遅延型アレルギー検査のIGE検査やIGE

A検査は医師会や日本アレルギー学会が否定していて、気軽に受けづらいのが現状です。私の例ですが、結婚後に体重が60kg

から86kgに増えたことがあり

ます。扁桃腺も腫れやすく、花粉症でくしゃみや目が止まらない身体に入ってきて、私も調べたところ、原因は卵だと分かった。これをきちんと治療してからは、講演で3時間話しても扁桃腺は腫れないし、春になってよくしゃみが出なくなると、休車も元に戻り、何を食べても太らなくなりましたよ。その後、同じ症状が出ていた母親にも検査を受

けさせたところまったく同じ結果が出た。こういうことが分かるわけです。

**山口** 有用であるのに、頑なに認められないのはおかしいこと

です。先ほど化学物質過敏症の患者の大半は主婦というお話でしたが、親のアレルギーは子供にも遺伝するのですか？

**辻** 先天性で遺伝するというよりも、親の環境が遺伝するといったほうがいいでしょうね。例えば、飼いが太っていると、

## アレルギーは環境も関係しています 総合的な生活習慣の改善が必要です

大も太っているのを見かけますよね。これは遺伝ではなく、同じ環境や食物で日々を過ごしているからです。

## 食を正す教育が豊かな日本をつくる

山口 ある意味、辻さんがやっているのは予防医学ですよ。薬を使わず、食物で治すという。辻 そ。私たちは食品でアレルギーの子だけでなく、発達障害やダウン症の子の顔まで変えて大学院に進ませ、脳健全欠損の子も普通幼稚園に入れま

す。この5年間で面倒を見た2000人以上の療育手帳を国に返していますよ。例えば、生まれつき脳健全欠損のK君がいます。大学病院の医師は、K君が生まれたときに、母親にこう告げられたときに、「お子さんと目を合わせることは一生ありません。お

子さんは笑うこともありません。コミュニケーションは絶対に取れません。諦めてください」と。山口 現実なのでしょうか、残

しになりますが、人間の身体は食物でできています。300gしかない脳みそが大人になると1.5kgに増えますが、3歳までに1.3kgになります。その3歳になるまでが勝負なんです。脳みその7割は油でできていて、そこにアレルギーを入れる

あの医者の言葉でどれだけ絶望の淵に立たされたんだ。そんな医者の研究材料になんか絶対にさせるな。1億円くれるなら遺伝子をやってもいいと断れ！」と言いましたよ。

山口 もっともな怒りですね。辻 子供の場合は、見た目は変わらなくても、学力を上げるなどして、「普通の子」に戻せます。そういう子たちの個性は神様からもらったギフトなんです。車で例えれば、プリウスでもF1

辻 そのK君が2年前にうちの食事療法を始めて、うちが食事や運営をサポートするエジソンアインシュタイン・スクールの神髄のツアーに参加しました。当時は喋ることができず、手当たり次第モノをひっくり返す「モンスター」でした。ところが、次の白馬のツアーのときには

PAを入れ、本人の気持ちを落ち着かせて、フラッシュカードなどを使って脳に直接働きかける勉強をさせます。ツアーでも

わらなくても、学力を上げるなどして、「普通の子」に戻せます。そういう子たちの個性は神様からもらったギフトなんです。車で例えれば、プリウスでもF1

を正さない限り、日本の未来は

さらには次の白馬のときはお父さん、お母さんと言えるようになり、昨年、普通幼稚園に入学したんです。今では楽しくそうにパレー教室やスイミング教室にも通っていますよ。

辻 一本もありません。繰り返

確保した上で、親の過保護から離れるための自然体験をさせます。それですわ。2年で普通幼稚園に入れられます。

山口 辻さんのお話に説得力があるのは、ただ食が健康にいいと主張するだけでなく、アレルギーや障害を持つ人たちと向き合ってきた当事者として、食が患者を救う現実を目の当たりにしてきた多くの経験があるからですね。辻さんの講演などを通して、予防医学や医療制度そのものを考え直すきっかけになればと願っています。本日はありがとうございました。



## ゲスト 辻 幸一郎 (つじ・こういちろう)

1968年東京都杉並区生まれ。37年創業の食物アレルギー対応食品専門店・辻安全食品店の2代目(2009年就任)。世界初の食物アレルギー対応クッキーをはじめ、アレルギー対応機内食の開発、アレルギーを持つ子供のツアーの開発、化学物質過敏症やシックハウス症候群といった環境アレルギー対応も行う。辻アレルギー調剤薬局、辻安全建築も経営。内閣府食品安全センター、健康医療コーディネーター。

辻 先日、同じ医師がK君の母親にこう言ってきたそうです。「毎年脳梁を撮影しても1本もないのに、なぜちゃんと喋れる学校にも行けるのか。遺伝子検査をさせてもらえないか」と。それを聞いて僕は、「ふざけるな！絶対にやめろ！おまえは

プリウスでない子は、落ちこぼれになってしまふ。授業中、歌を歌うくらいいいじゃないですか。私たちが子供のところは道を外れた不良でしたよね。そ

れと同じことですよ。山口 個性を大事にすると言っているが画一的な教育しかできない。教育の難しさですね。辻 そういっ子は特別学級に入られ、病院に連れて行かれ、発達障害の手帳を出され、精神安定剤やシロップを飲まされ、結局身体を壊してしまふ。そんな薬を飲ませるよりも、まずはきちんとした食物を与えること、その社会教育が必要です。これを